

第5回石巻市総合計画審議会 会議録

■日 時 令和2年12月1日（火） 午後6時～午後8時30分

■会 場 石巻市役所防災センター 多目的ホール

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

1 開会

委員数20名に対して17名が出席しており会議は成立

2 開会あいさつ 岩田会長

3 議事

(1) 審議事項 第2次石巻市総合計画基本計画（中間案）について

（説明：復興政策課及びSDGs地域戦略推進室） 資料1及び資料2

質疑応答

会 長： 目標となる数字があるが中身がないと指摘したところ、それは個別計画で対応すると回答されている。個別計画のためのワークショップのような推進体制を将来作るように要望した。みなさんから忌憚のない意見をお願いしたい。

委 員： 資料1の10頁にある財政の部分で、市立病院の黒字プロジェクトの件である。現在、新型コロナウイルス感染症の問題で、公的病院はどこもそれを理由に赤字の状態である。石巻市も例に漏れず、各病院の実際の内部を見てみると、やはり色々と改善すべき問題がある。内部の問題もあるが、市民の側にもある。審議会のような組織はあるけれども、関心のある人が委員になれない。また、ワークショップがあるが、自分も総合計画のワークショップにも参加し、参加者が少ないときには10人、20人不足の日もあった。そのような状況で出た意見がワークショップの意見として出るが、主な市民と言え、市役所の職員を指名してでもワークショップに参加させるべきである。それぞれの生活が大変な人たちにワークショップに参加してもらって意見を求めることも必要だが、それ以上に市の担当部署以外の職員に強制力を持って割り当てでも参加してもらわないと、市民が主役と言うけれども、市民は主役になっていない。強制力を持つとなると首長の責任にもなる訳だが、責任の問題ではなくて、システム自体を強化しないといけない。この財政の面で言えば、色々などところに出てくると思うが、テーマごとに実際に委員を公募して、単なる当て職ではなく、関心のある人をどんどん引き入れてほしいと思う。

それから、17頁に子どもの教育の問題、学校教育の問題が出ているが、これに学校の先生方、現場の先生方の意見がどれだけ反映されているのか。ここに書いているのは、インフラの全くないところに、近代的な建物

を作る話をして、現実には下水道もガスも電気もないと、そういう風なちぐはぐな中で議論をしているようである。10年経って、まだこのような状況なのか、というのが率直な意見である。もう少し担当者、現場の声が入るようなものにしてほしい。

- 会 長： 役人がやりなさいとなるとバイアスがかかるという意見もあると思う。会津磐梯町長と村役場に戻そうというプロジェクトをやっている、村役場にいる職員は、現場に出向いて何でもやらなくてはいけない。もう1つは、北九州市に青葉台という有名な住宅団地があり、30～40年も経っているが、今でもものすごくきれいである。なぜかという、そこを担当した係長がそこに住んでいて、メンテナンスもやっている。役場のどこに行ったら良いかも全て分かっている。先程の委員の意見はとても大事である。
- 事務局： 職員を会議等にどんどん入れることで、これまでと違う意見が出てくるとも期待できると思う。会議体の在り方について、いただいたご意見については、今後の進め方の参考にさせていただきたい。
- 会 長： もう1つの教育の問題だが、現場の先生が入っていないとなると、少し問題かと思う。ただ、私も学校教育に携わっているが、現場の先生を入れると、管理のことしか意見が出ない傾向にあり、設計者と敵対関係になる場合も多いので、そういうことがないように注意してやっていただけると良い。迫力のある先生をどうやって引っ張ってくるかが非常に重要で、三春町で教育改革をした際に、年配の先生よりも若い先生が来てくれたというのは良い傾向だと思う。
- 事務局： 今回の策定にあたり、直接学校勤務の職員の意見は入っていないが、学校から教育委員会に来ていただいている指導主事の方々の意見を聞きながら進めてきた。直接勤務している方々の意見が入っていないというところがあったので、今後の参考にさせていただき、付け加えられるものがあれば、付け加えていきたいと考えている。
- 委 員： 教育の問題だと、ISHINOMAKI2.0 が今週の金曜日の夜に教育問題の議論を広く市民に呼びかけている。教育委員会にも声をかけて、復興政策課の職員も参加し、関心のある移住者が積極的に話をしているので、ぜひとも話を聞いてほしい。
- 委 員： 資料2の147頁にある「コミュニティを核とした持続可能な地域社会をつくる」の数値目標に「市民のSDGs認知度 (%)」とあるが、市民の認知度はアンケート等でみるのか。
- 事務局： 市民意識調査を実施しており、その中で設問を設定している。
- 委 員： そのアンケートの際に、SDGsとだけ書くと、本来このSDGsの中身は分かっているけれど、言葉自体を理解していない人もいると思うので、中身も補足して明記していただけると良い。
- 会 長： その辺に気をつけてやっていただきたい。
数値目標に関連して、第3編の対応方針が2つだけで、それに施策は1つだけとなっている。さらに、施策1の「復興事業を確実に推進する」に下水道事業しか載っていないというのは、どういうことなのか。

- 事務局： 令和3年度以降の事業になるが、下水道事業だけでなく、その他にも事業が続くものがある。ただし、主な事業として、下水道事業が割合としても大きいので、今回は主要なものとして下水道事業を抽出した。
- 会長： その説明が必要なのではないか。それから東北はいつまでも甘えていて良いのか。神戸の大震災では国からの補助は5年程しかなかったが、10年経ってもまだやるのか。それから次の大震災が起きたら、そちらに飛んでいくのだから、自立していかなければならない。例えば、石巻地区は道路網がひどい。復興に併せて直すとか、やるべきことはたくさんある。そういったところは入ってこないのか。
- 事務局： 今回はあくまでも震災後10年間で、復旧・復興に対する国の補助や市独自の財源で行うものを第3編に盛り込んでいる。復興交付金事業が大きな割合となっており、令和2年度までに復興庁からいただいた予算で、すでにいただいている予算での事業管理をしっかりと行い、工事やソフト事業の早期完結に向けて、事業の抜き出しをしており、復興事業以外の道路網等については、第3編とは別にして、基本目標1～6の中で適切な事業を推進していくという考えである。
- 会長： 読んだ人が勘違いしてしまわないよう、書きぶりをもう少ししっかりとした方が良い。
- 委員： 1つは、147頁以降にカタカナ語がたくさん出てくる。70代、80代にとっては難しいだろう。一般化されていないものもある。149頁に「高齢者のデジタルデバインド（IT機器などの利用の得手不得手によって生じる格差）」と説明書きがあるように、必要に応じて、市民にとって分かりやすい説明書きがあったら良いと思う。
- もう1つは、ワークショップについて、希望者だけでは難しいと思う。施策を具現化する際に、どうしたら市民の意見を吸い上げられるかというのを深く考えて取り組んでいただきたい。
- 会長： 特にワークショップの部分は、これから個別計画で非常に重要な役割を果たすと思うので、しっかり考えてほしい。
- 事務局： 第2章が全体的に、個別計画に踏み込んでいる表現が多いため、今後見直しをさせていただきたいとお話したが、併せて、カタカナ語が多くて分かりにくいとご指摘いただいた部分も修正していく。
- 会長： グリーンスローモビリティの部分を書き込みすぎているという指摘をしたのは私である。一企業を応援するような文言を総合計画に入れるべきでないという指摘した。これを推進したいという気持ちはよく分かるが、総合計画なのでその辺りを配慮していただきたい。
- 委員： 各事業のKPIや数値目標については、これから5年間このまま固定でいくという捉え方で良いか。見直しはしないということか。
- 事務局： KPIの評価等については、現在、まち・ひと・しごと総合戦略でも使っている。基本的には項目の変更はしないと考えている。すでに達成していて当初の目的が果たされたという場合は、項目自体を変更するという事も考えられるが、数値目標を達成したとしても、項目自体は残しておくべ

きだという場合は、目標数値を上向きに修正することもある。

委員： 1つひとつの事業については、個別計画できちんと定めていくという話だった。私自身もまち・ひと・しごと総合戦略で5年間評価してきて感じているが、個別計画がしっかり定まっていない段階で、KPIを固定してしまうと、KPIの数値を達成することが、その事業の達成度とイコールになってしまうところが強い。KPIそのものに、この指標で計って良いのだろうか、まち・ひと・しごと総合戦略の委員はジレンマを抱えて5年間評価してきた。確か2年目か3年目のときに、指標そのものを変更できないのかという疑問があったと思うが、基本的に変更はしないという回答だった。この時代に5年間というスパンは少し長いと思う。例えば、移住定住はすごく難しい問題で、首都圏からの移住者数を指標にして良いのか、流出により毎年400人から500人という単位でマイナスになっていることを考えると、年間5人や10人の移住定住者数に指標を置いた移住定住策で良いのか等、1つひとつの事業に対して、今の段階でもっと議論すべきだと思う。その段階であるのに、指標を固定するとしているところに、また同じ5年を繰り返す怖さがある。前提が変わらなければ指標が変わらなくても良いのかもしれないが、今回のように新型コロナウイルスにより前提が変わるという事態が起きた。これからの5年というのは、人口や環境、新型コロナウイルス等で、目まぐるしく変わる5年だと思う。臨機応変に、前提や社会の状態に合わせてKPIを見直していかなければならないということや、この基本計画のところにKPIとは、というところもきちんと書いた方が良いのではないか。KPIを定めてしまったがために、5年間ミスリードしてしまうという可能性があると感じた。26頁の震災伝承情報発信件数の目標指数の単位が“人”になっていたり、46頁の出生率の単位が”人”になっていたり、この辺りは単純なミスかと思う。KPIを固定するということに関しては、固定でなくても良いと思う。例えば低炭素社会を実現するためにグリーンスローモビリティの延べ利用者数だけを指標にするのか等、1つずつ見ていくと、もっとたくさんあると思う。KPIの指数について議論するのが、この審議会なのか他なのかというところは私も分からないが、もし固定するのであれば、もっと1つひとつのKPIの設定を見直して、議論した方が良い。市だけで指標を設定するのは難しいと思う。NPO等の中でもKPIの勉強会をしようと話題が挙がっている位、すごく難しい問題で、間違ったらミスリードしてしまうというのが一番心配である。

先程ワークショップの話が出たが、たくさんの方の市民の意見を聞きたいが、呼びかけてもなかなか市民が集まらない大変さというのは、私自身も感じている。先日、石巻会議という集まりがあり、第2回の総会に市長にも来ていただいた。市民広域活動団体が100以上集まるネットワークがあり、その1つひとつの団体にはたくさんの方の市民が参加しているという集まりになっているので、そういったネットワークを存分に使う等、そういった形で意見を集めるシーンを増やしてほしい。

- 会 長： 指標について、まだできていない段階なので、真剣に見てはいないが、個別にはかなり不満がある。私の理解では、基本計画の位置付けは、個別計画に渡すためのヒントが書いていると考えている。市全体としてこの施策をどう位置づけるかということが書いてあって、それに対するK P Iが設定されている。2つ目に、個別計画になったときのK P Iは、ここでのK P Iと違うと考えている。個別計画での数値目標をきちんと決めていかなければならなくて、全体のK P Iと整合性が取れるかどうか、その都度見直していくことが必要である。3つ目に推進体制をどうするか、1年間に1回位は委員会でチェックをして、きちんと見直しを図るなり、報告を聞くなりする必要がある。その中で個別計画が活かされていき、それが計画のあるべき姿だと考えている。違う場合は、事務局で訂正してください。
- 事務局： K P Iの設定については、会長からもあったように、総合計画の三本柱の1つである実施計画の中で個別に位置付けていき、目標を設定していく。基本計画に設定したK P Iが個別事業に直接的にリンクしていくかというところについては、事業ごとに特性があるので、必ずしも一致するとは限らないと考えている。そういった中で、計画を作る以上、何らかの指標で進捗や成果の確認をしていかないといけない。現在は項目と単位しか書いていないが、基本計画の中で設定した指標に数値を入れたときに、その数値を簡単に変えることができるかと言われると、やはり変えることは難しいと考えている。他の自治体の例も見ながら、極力間違いのない項目の設定、数値の設定について意識し、もう少し勉強していきたい。指標の単位に誤りがあるというご指摘については、追って訂正する。
- 委 員： まず93頁の教育について、「学校教育の充実を図る」とあり、これはこれで結構だが、根本的に教育の問題というのは、課題や問題を切り開いていく、考える力をつけるというのが目的だと理解している。考える力というのが入っていないような感じがするので、ぜひ入れたらいかがかと思う。それから以前、教育委員をやっていた際、先生方が居眠りをしていた時に私がお金の話をしたら、みなさん関心を持って、熱い視線が集まったということがあった。いわゆる金銭教育というのを中学校や高校でもほとんどやっていない。日本人はお金を稼ぐという言葉に違和感を覚える習性があり、お金の勉強を全然しないで卒業して、そのまま社会に放り出される。金銭教育というのを高校くらいまでにやった方が良いのではないか。特に税金については、ほとんど知らないまま卒業する。社会人になってから、何の税金を取られているか分からない。そういったことを最低限教えるということをした方が良いのではないかというのが私の意見である。それから、119頁に「下水道事業進捗率」というのがあるが、これは普及率のことか。進捗率というのが良く分からない。
- 次に、災害に強いまちづくりとあるが、私の家はブロック塀で危ないと思っている。市から何の連絡も来ていないし、お金もかかるのでどうしようかと思っているところである。例えば、危険ブロックを調査して支援制度もあるようなので、何件危ないのか、年間何件直すのか、そういったもの

も1つのKPIになるのではないか。

127頁に「地域産業力の競争力を強化する」とあり、KPIが「産業創造助成件数」となっている。企業にお金を配るとKPIが高くなると、そういう風にも読めるのだが、地域産業の競争力を強化するというのであれば、所得を上げる、生産性を上げる指標にした方が良いのではないか。

129頁の最初に「少子高齢化により様々な分野で」とあり、その通りだが、少子化と高齢化はそれぞれ違う話である。出てくる問題はそれぞれ異なり、労働力人口の減少、これが問題だという話だと思う。奨学金を出す、というのは結構だと思うが、生産性を上げるということをやほり1つの指標にすべきだと思う。

139頁の「審議会・委員会などに占める女性委員の割合」とあり、男性・女性に限らず、トランスジェンダーを含むということが新聞等にも書いてあったので、このままで良いのか疑問に思った。

141頁の「公共交通利用者数」を1つのKPIにする理由がよく分からない。公共交通はどんどん縮小していくと感じているが、利用者数を増やすことを目標にするのが機能の充実を図るということなのか。グリーンスローモビリティに関連しているということなのか、よく分からなかった。142頁に「観光客入込数」とあるが、観光客入込数はどのように調べているのか。宿泊者数、石巻市のホテルや旅館に泊まった人数なのか、何を換算して出しているのか根拠を知りたい。

事務局： 1点目の教育のところに考える力が入っていないということについては、93頁の「1 学校教育の充実を図る」の1つ目「ひとりひとりの学力の定着と向上を図るために、具体的な方策を提示し、未来を生きる力（確かな学力）の育成を図ります。」に考える力が含まれていると考えているが、表現の仕方についても一度検討したい。

次に、119頁の「下水道事業進捗率」については、あくまで復旧・復興事業で行おうとしているものの進捗率としており、市全体の下水道普及率とは別のものと考えている。

会長： 普及率だと世帯数になるが、進捗率となると工事になるので延長か何かということか。

事務局： 進捗率として色々なパーセンテージがあり、延長という考え方もあるが、今回は事業として総額に対して何%完了しているかというところをイメージしている。

委員： 壊れた下水道管を直す等、それを金額ベースで出すということか。

事務局： 金額ベースが分かりやすいのか、延長単位でパーセンテージを出すのが分かりやすいのか、改めて考えさせていただきたい。下水道事業の中には、ポンプ場も入っており、延長が分かる環境だけではないため、今のところは金額の方が分かりやすいと考えている。

続いて127頁に関して、所得を上げる指標にしてはどうかというご意見があったが、そのような考え方もあると感じている。

139頁の女性委員の割合について、LGBT等、現時点では石巻地域で

そこまで踏み込んだ調査はしていないことから、この設定となった。

141頁の公共交通の利用者数について、利用される方は減る傾向にある。施策に取り組むことによって、公共交通を利用して街なかへ足を向ける方を増やしたいという思いで設定している。

142頁の観光客入込数は観光施設への入所者数だと認識している。危険ブロックがKPIになるのではないかという指摘があったが、こちらについては資料2の40頁の「安心安全な住環境と都市機能の整備を推進する」というところで、41頁にある「2 災害に対する備えを充実させる」の2つ目に道路に面するブロック塀について位置付けている。41頁の3-2にあるようにKPIを設定している。

委員： 1つは、感染が止まらない新型コロナウイルスについて、国も色々な施策を出している。社会が新しくなっている。先程カタカナが多いという話が出たが、国がどんどん出している。もっと分かりやすくなると良いと思っている。間違いなく社会全体のデジタル化が進んでいる。私自身も学生からオンライン授業を夜にやってほしいと要望があり、それが常態化していくだろう。それを考えると市町村、行政もデジタルカーストに対して、市民の利便性を向上するような何か、そういったところに知恵を出すということが必要ではないかと思う。学校教育にしても、デジタル化によって教育格差が出るのは明らかである。率先して、どういうオンライン環境を石巻市から発信して整備していくか。産業では特に、経営改革、働き方改革、どんどん見合ったものを提案して行ってほしい。デジタル化、Society 5.0というのが出ているが、そういったところを加味した展望をどこかに入れた方が良いのではないか。

もう1つは、SDGsについて、宮城県内初のモデル都市に選定されている。国連が2030年までに達成すべき目標を掲げており、石巻市の基本構想が2030年までと全く同じである。石巻市がSDGsの2030年までの完了宣言を出すくらいの発信力があると良い。要素は散りばめられていてすごいと思う。それはそれで良いのだが、効果が出るまでに時間がかかる取組も多いけれども、石巻市から発信していく姿勢がほしい。

会長： ワクチンができるまでという考え方もあるが、これほど真剣にテレワークを議論されることになることはなかった。ただし、テレワークはあくまでサラリーマンの言葉であり、農林水産業はどうするのかというのは大事なテーマだと思う。

事務局： 総合計画を策定する中で課題の1つに新型コロナウイルスも取り込んでいる。計画にどのように取り組んでいくか考えた時に、色々なところに新しい様式のエッセンスを組み込んでいると考えている。例えば、90頁は教育環境の記載になるが、「ICTの活用方法に慣れ親しみ」等、いわゆるGIGAスクール構想等を散りばめている。新型コロナウイルスとして特出しして、1つのプロジェクトを置かなかったというのは、長期的な総合計画という観点からあまり馴染まないのではないかとこのところから、エッセンスとして散りばめるという作り方になった。ご意見については、

大変参考になるので、今後検討していきたい。

SDGsに関しては、力を入れて取り組んでいきたい部分であるが、情報発信が足りていないということも感じている。普及啓発の流れとともに、市の取組をもっと発信していきたい。

会 長： 冒頭に新型コロナウイルスとは書かなくても、時代が変わっているということは書かなくてはいけないのではないか。それと、10年間の長期計画だと、途中で改める必要があるということ念頭に置いた上で構成を考えた方が良い。

(2) 報告事項 第2次石巻市総合計画基本構想（原案）について

（説明：復興政策課） 資料3

質疑応答

委 員： 基本計画の方に戻って申し訳ないが、資料2の87頁「豊かな心を育む」とあり、93頁で他の委員からも指摘があったように、確かな学力の中に考える力、課題解決能力が包含されているのだろうが、よく見えない。石巻市でどんな子どもたちを育てようとしているのか見えてこない。例えば、次に外国語教育があるが、それとセットになって、国語教育や日本の伝統文化と一緒にしている部分もあり、石巻市には伝統文化を大事にしている学校がたくさんあるのではないか。それをどう考えているか。それから、知・徳・体を育てるための学校教育になっている訳で、豊かな心がどこかに盛り込まれていないといけないのではないか。ここまで出来てから検討するのは大変かと思うが、ぜひ検討していただきたい。

事務局： 内容について改めて精査したい。

委 員： 石巻市民憲章をご存知だと思う。中身に関しては、文章そのものは覚えていなくても、意味合いは分かると思う。10年前にできた際には、非常に素晴らしいものができたと思った。その中に、メインのテーマが3つ歌い込まれている。「まもりたいものがある それは生命（いのち）のいとなみ豊かな自然」「つたえたいものがある それは先人の知恵 郷土の誇り」「たいせつにしたいものがある それは人の絆 感謝のこころ」という3つが歌い込まれて、そして私たちは石巻に住む、という文章になっている。これは非常に中身が深いもので、震災のことも含めて我々は石巻にいて、この考え方をしっかりともう一度検討しなくてはならない。将来像、石巻を考える時にも、記憶には薄れてきているだろうが、この文章を思い出して石巻を考えるということが、まず総合計画の前に必要である。大体、中身的には一緒になる。できることなら、総合計画が完成した時に、裏表紙でもどこでも良いが、市民憲章を載せていただきたいと思う。市民憲章ができた当時は、こういった委員会や公的な会議で最初にみんなで斉唱して、委員会をスタートするという習慣が何年かあった。形は別として、気持ちの面で思い起こしてもらうためにも、ぜひ載せてほしい。

- 事務局： 現在、憲章を入れ込むかどうか決定はしていないが、冊子にする段階で入れるという考え方はあると思うので、改めて検討させていただきたい。
- 委員： 河北地区は、今年の19号台風で非常に大きな被害があった。雨水の排水対策を河北地区の今後の対応に入れていただきたい。災害について広く拾ってあり、避難等のソフト面はある。資料2の155頁にある石巻地区の施策展開の方向の4つ目に「雨水排水施設を早急に整備し」とあるが、このような文言を河北地区にも入れていただきたい。
- 副会長： 先程、市民憲章の話が出たが、石巻市において、過去に暴力追放都市宣言や非核平和都市宣言を出しているが、現在はどうなっているのか。もしあるとすれば、市民憲章と一緒に表示する等、工夫してはどうか。ぜひ検討してほしい。
- 次に、資料2の第1章の「住民同士の絆・支え合いで安全安心に暮らせるまち」の中で、全般的に防災や消防機能等が入っているが、防犯がどこにも出てこない。安全安心なまちづくりは災害だけではないと思うので、再度見てほしい。
- 第6章の行財政の関係で、全体で9項目を羅列してあるが、現在、広報広聴事業というのはどうなっているか。第1節の「多様な市民ニーズの把握」等と広報広聴事業が一緒のものと考えているのか。第2節の「持続可能な行財政運営の推進」の中で、限られた人材や公共施設の維持管理等とあるが、震災の関係で公共施設が大分整備されている。今後、これらの公共施設の維持管理費等を想定した場合に、石巻市の財源、財政状況を当然加味していると思うが、職員数の適正化や組織のスリム化を含めた形での表現としているのか、その辺をもう少し分かりやすく表現すれば、市民の方々にも分かっていたのではないかと。
- 事務局： 加味した形で書き加えているが、分かりにくい部分もあるので、改めて検討させていただきたい。
- 会長： 今日の結果について、事務局で議論を重ねて、しっかりと対応してほしい。
- 事務局： 先程、河北地区のご意見があった部分について、資料2の158頁にある施策展開の方向の5つ目に「地震や水害などの自然災害に対応する」という表記がある。雨水排水の関連については、この中に網羅していると考えている。各地区の展望については、各まちづくり委員会に諮問しており、そちらからの答申を受けるという形になるので、ご理解いただきたい。今後のスケジュールは、基本計画については今年度末の答申を目標に考えている。それに併せ、年度末になるかと思うが、次回の審議会を開催させていただきたい。日程等が決まり次第、早期にお知らせしたい。

4 その他

5 閉会あいさつ 大槻副会長

6 閉会

石巻市総合計画審議会委員名簿

No.	氏 名	所 属	備 考
1	岩田 司	東北大学災害科学国際研究所 教授	会長 出席
2	大槻 英夫	社会福祉法人石巻市社会福祉協議会 会長	副会長 出席
3	関根 慎吾	石巻専修大学経営学部 教授	出席
4	鈴木 康夫	東北福祉大学総合マネジメント学部 学部長・教授	出席
5	佐藤 伸吾	国土交通省東北地方整備局北上川下流河 川事務所 所長	出席
6	佐藤 靖	宮城県東部地方振興事務所 所長	欠席
7	青木 八州	石巻商工会議所 会頭	出席
8	須能 邦雄	石巻市水産振興協議会 会長	出席
9	松川 孝行	いしのまき農業協同組合 代表理事組 合 長	欠席
10	阿部 隆	特定非営利活動法人石巻市スポーツ協会 会長	出席
11	西條 允敏	石巻市文化協会 会長	出席
12	立花 善孝	一般社団法人石巻青年会議所 理事長	出席
13	千葉 陽子	石巻市女性活躍推進会議 副会長	出席
14	木村 民男	石巻市子ども子育て会議 会長	出席
15	佐々木 清勝	河北地域まちづくり委員会 会長	出席
16	大槻 敏也	雄勝地域まちづくり委員会 副会長	出席
17	今野 まゆみ	河南地域まちづくり委員会 委員	出席
18	伊藤 桂子	桃生地域まちづくり委員会 副会長	出席
19	佐藤 尚美	北上地域まちづくり委員会 委員	出席
20	後藤 ゆか	牡鹿地域まちづくり委員会 副会長	欠席

(令和2年12月1日現在) (敬称略)